

第3回文翔館周辺エリアウォークブル基本構想検討会議(概要)

1. 開催日：令和8年3月23日(月)(文翔館会議室)
2. 出席者：山形大学 工学部建築デザイン学科 佐藤教授
東北芸術工科大学 デザイン工学部建築・環境デザイン学科 加藤専任講師
山形商工会議所 木村専務理事
山形河川国道事務所 菊地副所長
山形警察署 花輪交通官
山形市まちづくり政策部 檜尾都市政策調整監
村山総合支庁建設部 田中建設部長
3. 議事内容
基本構想(最終案)について → 了承
4. 主な意見等 ※⇒は事務局回答
 - ① 構想から設計への移行について
基本方針の策定段階から実際の設計・整備の段階への橋渡しが重要になる。早い段階で周辺事業者やエリアマネジメント組織等と意見交換を行い、その内容を道路空間や広場などの詳細設計に反映させていくべき。
⇒ インフラ計画の段階から、公共空間でどのような活動が行われるのかを具体的に想像し、デザインに織り込むことが重要だと認識している。来年度からの具体的な設計では、地域で活動の主体となりうるプレイヤーの方々の意見も伺いながら検討を進めていく。
 - ② 来年度の予定について
来年度(令和8年度)に具体的に検討・決定していく内容はどのようなものか。
⇒ 令和11年度の新市民会館開館を見据え、まずは市役所前の通りの設計を先行して進める予定である。あわせて、文翔館前広場などの各県有施設の広場活用について、施設管理者や利用者の意見を踏まえながら、居心地のよい空間の具体的な内容を検討していく。
 - ③ 交通規制と安全確保について
市役所前の車線の削減や自転車レーン整備で、周辺を含めた交通の流れが大きく変化することから、周辺の信号機や道路標識、交通規制の変更とあわせて、歩行者や自転車の安全確保のため、状況に応じて交通指導や取り締まりも検討する。
 - ④ 市のまちづくり・再開発との連携について
山形市が推進する「歩くほど幸せになれる街づくり」と深く連動した、非常に理想的な最終案である。市民会館のみならず、旧千歳館から遊学館周辺にかけての再開発も進んでおり、新たな周遊エリアが形成されつつある。今後の事業推進にあたっては、引き続き市のまちづくりと連携を図りながら進めて欲しい。
 - ⑤ 県民等への広報・周知について
最終的にこの空間を利用するのは市民であるため、取組を継続的に発信していくことが重要である。今後どのような周知活動を想定しているか。
⇒ 現在は県のホームページやSNSを活用して情報発信を行っているが、今後はテレビなども含め、複数の媒体を活用し、より広く知っていただけるよう広報周知に努める。